)入院収益の増加												
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
稼働病床数 (年間平均)	目標	_	_	_		556床	564床	578床	591床	597床	対目標	A
(十月十岁)	実績	552床	520床	501床	502床	545床	562床	_	_	_	対前年	+1
7 哈中 大米	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
入院患者数 (一日平均)	目標	520人	533人	530人	500人	500人	507人	520人	532人	535人	対目標	A :
(17-37	実績	493人	410人	413人	424人	457人	469人	_	_	_	対前年	+1
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
病床利用率	目標	_	_	_	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	89.6%	対目標	▲ 6.
(稼働率)	実績	89.4%	78.9%	82.4%	84.4%	83.9%	83.5%	_	_	_	対前年	▲ 0.
	備考	・稼働病床	数に対する	病床利用率	(稼働率)で	であり、退院	患者含む					
	年度	H31/R1	R2	済	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
新入院患者数	目標	15,600人	16,200人	16,200人	14,038人	14,524人	15,168人	15,817人	16,182人	16,273人	対目標	1 ,
	実績	13,757人	11,438人	12,119人	11,966人	13,520人	14,002人	_	_	_	対前年	+4
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
平均在院日数 ★小さい方が望ましい指標	目標	12.2日	12.0日	12.0日	12.0日	11.6日	11.2日	11.0日	11.0日	11.0日	対目標	±(
★小ごい力が主よしい指標	実績	12.1日	12.1日	11.5日	11.9日	11.4日	11.2日	_	_	_	対前年	A (
DPC入院期間	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
Ⅱ以内の	目標	_	_	_	70.0%	70.0%	71.0%	71.0%	72.0%	72.0%	対目標	▲ 5.
退院患者割合	実績	66.3%	65.2%	67.0%	65.4%	65.9%	65.8%	_	_	_	対前年	_ 0.
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
入院診療単価	目標	67,500円	67,600円	71,000円	75,289円	78, 185円	79,284円	79,920円	80,586円	82,878円	対目標	1 ,
	実績	66,870円	71,050円	74,500円	77,084円	77,556円	78,233円	_	_	_	対前年	+6
取り組みや評価	西	かった。 また、第3 たことで、	次経営計画 小児・周産	なと、新人R に基づき、R 期の患者受l 在、第3次紹	6年9月より ナ入れ能力に	小児病棟を は拡大したか	(、増床した	→63床)、R 病床は病床	7年2月よりN 稼働率90%の	NICUを増床 D達成には3	(15床→1 至っていた	8床) い。
取り組みや評値	西	かった。 また、第3 たことで、	次経営計画 小児・周産	に基づき、R 期の患者受l	6年9月より ナ入れ能力に	小児病棟を は拡大したか	増床(54床- ヾ、増床した	→63床)、R 病床は病床	7年2月よりN 稼働率90%の	R6年度には NICUを増床 D達成には3	(15床→1 至っていた ところであ	8床) ない。 ある。
2)外来収益の増加	年度	かった。 また、第3 たことで、 のような背 H31/R1	次経営計画 小児・周産 景から、現 R2	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次編 R3	6年9月より け入れ能力は Y Y Y R R R 4	小児病棟を は拡大したか 記直すため、 R5	増床(54床- ^ド 、増床した 当院にとっ R6	→63床)、R 病床は病床 ての適正な R7	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言	R6年度には NICUを増床 D達成には3 討していると	(15床→1 至っていた ところでa 上ころでa	8床) ない。 する。 量指標
	年度目標	かった。 また、第3 たことで、 のような背 H31/R1 1,000人	次経営計画 小児・周産 景から、現 R2 1,001人	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次編 R3 1,060人	6年9月より け入れ能力に 圣営計画を見 R4 1,060人	小児病棟を は拡大したか 記直すため、 R5 1,060人	増床(54床- 、増床した 当院にとっ R6 1,060人	→63床)、R 病床は病床 ての適正な	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検討	R6年度に NICUを増床 の達成には3 対していると	(15床→1 至っていた ところでま 定量 対目標	8床) ぶい。 うる。 量指標 +1
2) 外来収益の増加 外来患者数	年度 目標 実績	かった。 また、第3 たことで、 のような背 H31/R1 1,000人 1,053人	次経営計画 小児・周産 景から、現 R2 1,001人 985人	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次編 R3 1,060人 1,056人	6年9月より け入れ能力に 圣営計画を見 R4 1,060人 1,039人	小児病棟を は拡大したか 記直すため、 R5 1,060人 1,062人	増床(54床- 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人	→63床)、R 病床は病床 ての適正な R7 1,060人	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人	R6年度には NICUを増床 D達成には3 対していると R9 1,060人	(15床→1 至っていた ところでま ところでま 対目標 対前年	8床) い。 ある。
2)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均)	年度 目標 実績 年度	かった。 また、第3 たことで、 のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1	次経営計画 小児・周産 景から、現 R2 1,001人 985人 R2	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次編 R3 1,060人 1,056人 R3	6年9月より ナ入れ能力は 全営計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4	小児病棟をは拡大したか は拡大しため、 配直すため、 R5 1,060人 1,062人 R5	増床(54床- 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6	→63床)、R 病床は病床 ての適正な R7 1,060人 - R7	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人 -	R6年度には NICUを増床 か達成には 対していると R9 1,060人 	(15床→1 至っていた ところでま ところでま 対目標 対前年 定量	8床)。 ある。 指標 + 指標 指標
2) 外来収益の増加 外来患者数	年度 目標 年度	かった。 また、第3 たことで、 のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円	次経営計画 小児・周産 景から、現 R2 1,001人 985人 R2 18,800円	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次編 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円	6年9月より け入れ能力は 圣営計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円	小児病棟を は拡大したか 記直すため、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円	増床(54床- 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円	→63床)、R 病床は病床 ての適正な R7 1,060人	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人	R6年度には NICUを増床 D達成には3 対していると R9 1,060人	(15床→1 至っろで ところで ところで 対 対前年 対前年 対目標	8床)。 らる。
2) 外来収益の増加 外来患者数 (一日平均)	年度 目標 実績 年度	かった。 また、第3 たことで、 のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円	次経営計画 小児・周産 景から、現 R2 1,001人 985人 R2 18,800円 21,029円	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次編 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円	6年9月より け入れ能力は 圣営計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円	小児病棟を は拡大したか 直すため、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円	増床(54床- 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円	→63床)、R 病床は病床 ての適正な R7 1,060人 - R7 22,500円	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人 - R8 22,800円	R6年度に NICUを増床 D達成には3 対していると R9 1,060人 - R9 23,100円	(15床→1 至っろで ところで 対前に 対前年 対前年 対前年	8床)。 おい。 うる。 量指標 + 量指標 1,
2)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均)	年度 目標 実績 年度 目標 実績	かった。 また、第3 たことです のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増	次経営計画 小児・周産 景から、現 R2 1,001人 985人 R2 18,800円 21,029円 加にも関わ	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次編 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円	6年9月より け入れ能力は 圣営計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 度の外来収益	小児病棟を は拡大したか 直すため、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ	増床(54床ー 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円	→63床)、R 病床は病床 ての適正な R7 1,060人 - R7 22,500円	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人 - R8 22,800円	R6年度に NICUを増床 D達成には3 対していると R9 1,060人 - R9 23,100円	(15床→1 至っろで ところで 対前に 対前年 対前年 対前年	8床) ぶい。 5る。 遣指標 +1 量指標 ▲1,
2)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評価	年度 目標 実績 年度 目標 実績	かった。 また、第3 たことです のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増	次経営計画 小児・周産 景から、現 R2 1,001人 985人 R2 18,800円 21,029円 加にも関わ	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次終 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らず、R6年間	6年9月より け入れ能力は 圣営計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 度の外来収益	小児病棟を は拡大したか 直すため、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ	増床(54床ー 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円	→63床)、R 病床は病床 ての適正な R7 1,060人 - R7 22,500円	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人 - R8 22,800円	R6年度に NICUを増床 D達成には3 対していると R9 1,060人 - R9 23,100円	(15床→1 至っろで ところで 対前に 対前年 対前年 対前年	8床)。 おい。 うる。 量指標 + 量指標 1,
2)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評価	年度	かった。 また、第3 たことです のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増	次経営計画 小児・周産 景から、現 R2 1,001人 985人 R2 18,800円 21,029円 加にも関わ	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次終 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らず、R6年間	6年9月より け入れ能力は 圣営計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 度の外来収益	小児病棟を は拡大したか 直すため、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ	増床(54床ー 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円	→63床)、R 病床は病床 ての適正な R7 1,060人 - R7 22,500円	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人 - R8 22,800円	R6年度に NICUを増床 D達成には3 対していると R9 1,060人 - R9 23,100円	(15床→1 至ころでませた) 対対前で 目前年 対前に 対前年 外来化学	8床)。5553。
)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評価	年度 目標 実績 年度 目標 実績	かった。 また、第3 たことでな のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増 射料収益が	次経営計画 小児・ 景から、現 R2 1,001人 985人 R2 18,800円 21,029円 加にもしたこ	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次約 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らず、R6年間 とであり、郭	6年9月より け入れ能力に 全営計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 度の外来収益 薬品費も同時	小児病棟をは拡大したか は拡大したか、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ に約8000万	増床(54床- 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円 り約1.1億円	→63床)、R 病床は病床 ての適正な R7 1,060人 - R7 22,500円 -	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人 - R8 22,800円 -	R6年度には NICUを増床 D達成には 対している R9 1,060人 R9 23,100円 区因は、主に	(15床→1 至ころでませた) 対対前で 目前年 対前に 対前年 外来化学	8床)。 おい。 うる。 量指標 ★1, ★6 療法(
)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評値)手術件数の増加 手術件数	年 目 実 年 目 実 年 目 要 標 書 世 年 目 実 年 目 実 年 目 要 書 世 年 目 要 書 日 世 年 目 世 年 目 世 年 目 世 年 日 日 日 日	かった。 また、第3 たことで。 のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増 射料収益が H31/R1 4,400件	次経営計画 小児・ 景から、現 R2 1,001人 985人 R2 18,800円 21,029円 加にも関わ 減少したこ R2 4,550件	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次紀 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らず、R6年間 とであり、事	6年9月より け入れ能力に 全営計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 度の外来収益 素品費も同時 R4 5,000件	小児病棟をは拡大したが は拡大したが、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ に約8000万 R5 5,100件	増床(54床- 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円 り約1.1億円 円減少した R6 5,200件	→63床)、R 病床は病床 ての適正な R7 1,060人 - R7 22,500円 - 円減となった。	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検記 R8 1,060人 - R8 22,800円 - こ。減収の要	R6年度には NICUを増床 D達成には3 対していると R9 1,060人 - R9 23,100円 - E因は、主に	(15床→1 至ころ 対対 対対 目前 対対 が来 が 対 が は は が は は は は は は は は は は り は り は り は	8床)。。
2)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評価 3)手術件数の増加	年 目 実 年 目 実 年	かった。 また、第3 たことでなず H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増 射料収益が H31/R1 4,400件 4,960件 ・R3年度途	次経学計画 次経学計画 果2 1,001人 985人 R2 18,800円 21,029円 加にしした R2 4,550件 4,203件 中より眼科	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次終 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らず、R6年間 とであり、事	6年9月より け入れ能力に 子と計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 変の外来収益 素品費も同時 R4 5,000件 4,221件 主射を手術る	小児病棟を は拡大したか、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ に約8000万 R5 5,100件 4,662件	増床(54床ー 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円 い約1.1億円 円減少した R6 5,200件 4,795件	→63床)、R 不の適正な R7 1,060人 - R7 22,500円 - 円減となった。 R7 5,400件 -	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人 	R6年度には IICUを増床 D達成には3 討していると R9 1,060人 - 89 23,100円 - 四は、主に R9 5,500件 -	(15km→1 (15nm→1 対対 対対対対対対対対対対対対対 目前 は 対対が は は は は は は は は は は は は は は は は は	8床)。5553。
2)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評価 3)手術件数の増加 手術件数 (手術室)	年目実年目実年目実	かった。 また、第3 たことでなず H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増 射料収益が H31/R1 4,400件 4,960件 ・R3年度途	次経学計画 次経学計画 果2 1,001人 985人 R2 18,800円 21,029円 加にしした R2 4,550件 4,203件 中より眼科	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次終 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らず、R6年度 とであり、 R3 4,550件 4,260件	6年9月より け入れ能力に 子と計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 変の外来収益 素品費も同時 R4 5,000件 4,221件 主射を手術る	小児病棟を は拡大したか、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ に約8000万 R5 5,100件 4,662件	増床(54床ー 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円 い約1.1億円 円減少した R6 5,200件 4,795件	→63床)、R 病床は病床な R7 1,060人 	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人 	R6年度には IICUを増床 D達成には3 討していると R9 1,060人 - 89 23,100円 - 四は、主に R9 5,500件 -	(15年) 1 を 1 を 2 を 2 を 2 を 2 を 3 を 3 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 5 を 5 を 5	8床)。。
)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評値)手術件数の増加 手術件数 (手術室)	年 目 実 年 目 実 備 度 標 績 度 標 績 彦 標 績	かった。 また、第3 たことでなり H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増 射料収益が H31/R1 4,400件 4,960件 ・R3年度途 ・硝子体内	次経学計画 次経学計画 R2 1,001人 985人 R2 18,800円 21,029円 加に少したこ R2 4,550件 4,203件 中よ射を除い	に基づき、R 期の患者受け 在、第3次紀 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らず、R6年間 とであり、 R3 4,550件 4,260件 の硝子体内流 た手術件数	6年9月より け入れ能力に 子文れ能力に 子文計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 変の外来収立 素品費も同時 R4 5,000件 4,221件 主射を手術質 : 4,675件(H	小児病棟を は拡大したか、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ に約8000万 R5 5,100件 4,662件 圏外(外来)で 31/R1)→3,	増床(54床- 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円 い約1.1億円 円減少した R6 5,200件 4,795件	→63床)、R 病床は病床 ての適正な R7 1,060人 - 87 22,500円 - 円減となった。 R7 5,400件 - 変更したた 4,188件(R3	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人 	R6年度には IICUを増床 D達成には3 対していると R9 1,060人 - 89 23,100円 - 四は、主に R9 5,500件 - を単純に比載	(15年) 1 を 1 を 2 を 2 を 2 を 2 を 3 を 3 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 4 を 5 を 5 を 5	8床)。。
2)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評値 3)手術件数の増加 手術件数 (手術室)	年目実年目実 年目実 備 年	かった。 また、第3 たことでなり H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増 射料収益が H31/R1 4,400件 4,960件 ・R3年度途 ・硝子体内	次経 次 次 に に に に に に に に に に に に に	に基づき、R 期の第3次 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らずであり、 R3 4,550件 4,260件 の硝子体内 た手術件数 R3	6年9月より け入れ能力を R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 変配費 の外費も同時 R4 5,000件 4,221件 主射を手件(H R4	小児病棟を は拡大したか、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ に約8000万 R5 5,100件 4,662件 S外(外来)で 31/R1)→3,	増床(54床ー 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円 り約1.1億円 可円減少した R6 5,200件 4,795件 の実施へと 907件(R2)→ R6	→63床)、R 不の適正な R7 1,060人 - R7 22,500円 - 9減となった。 R7 5,400件 - 変更したた 4,188件(R3	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検記 R8 1,060人 	R6年度には R1CUを増床 D達成にいると R9 1,060人	(15年) (15っこ 対対 対対 対対 で 定標年定標年 学 対対 で 定標年 重	8床)。。
)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評値)手術件数の増加 手術件数 (手術室)	年 日 実 年 目 実 年 目 実 年 目 実 の に の に の に の に の に の に の に の に の に の	かった。 またことう。 のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増 射料収益が H31/R1 4,400件 4,960件 ・ R3年度途 ・ 硝子体内 H31/R1	次 次 次 に に に に に に に に に に に に に	に基づき、R 期の第3次 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らであり、 R3 4,550件 4,260件 の硝子体内 た手術件数 R3	6年9月より け入れ能力に 大人れ能力に 大人れ能力に 大人れ能力に 大人れ能力に R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 変の外表も同時 R4 5,000件 4,221件 主射を手術に 14,675件(H R4 3,300件	小児病棟を は拡大したか 配直すため、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ 計に約8000万 は前年度よ 31/R1)→3, R5 31/R1)→3, R5 3,350件	増床(54床- 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円 い約1.1億円 の円減少した R6 5,200件 4,795件 の実施へと 907件(R2)→ R6 3,400件	→63床)、R 不の適正な R7 1,060人 - R7 22,500円 - 9減となった。 R7 5,400件 - 変更したた 4,188件(R3	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検記 R8 1,060人 	R6年度には R1CUを増床 D達成にいると R9 1,060人	(15ca) (15ca) 対対 対対 対対 で	8床)。。
)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評()手術件数の増加 手術件室) 全身麻件室)	年目実年目実 年目実 備 年目実	かった。 また。第3、のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増 射料収益が H31/R1 4,400件 4,960件 ・R3年度途 ・硝子体内 H31/R1 ー 3,267件	次経学計画 次経学・ R2 1,001人 985人 R2 18,800円 21,029円 加にししたこ R2 4,550件 4,203件 中よ射を除い R2 - 2,742件	に基づき、R 期の第3次終 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らずであり、 R3 4,550件 4,260件 の硝子体内だ た手術件数 R3 - 2,881件	6年9月より け入れ能力に 子と計画を見 R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 変の分費も同時 R4 5,000件 4,221件 主射を手術写:4,675件(H R4 3,300件 2,806件	小児病棟をは拡大したが、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ た約8000万 R5 5,100件 4,662件 ■外(外来)で 31/R1)→3, R5 3,350件 3,089件	増床(54床- ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	→63床)、R 不の適正な R7 1,060人 - R7 22,500円 - 門減となった。 R7 5,400件 - 変更したた 4,188件(R3 R7 3,450件 -	7年2月よりN 稼働率90%の 病床数を検言 R8 1,060人 	R6年度には R1CUを増床 D達成にいると R9 1,060人 	(15ca) (15ca) 対対 対対 対対 で	8床)。。
)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評(3)手術件数の増加 手術(件室) 全身(所称) 全身(所称) 中央手術室	年目実年目実 年目実備年目実備年目実件 度標績度標績 度標績度	かった。 また。第3、のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増 射料収益が H31/R1 4,400件 4,960件 ・R3年度途 ・硝子体内 H31/R1 ー 3,267件	次経学計画 次経 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	に基づき、R 期の第3次終 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らずであり、 R3 4,550件 4,260件 の硝子体内注 た手術件数 R3 - 2,881件	6年9月より け入れ能力を R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 度の外表も同時 R4 5,000件 4,221件 主射を手術は 4,221件 (1,494円 21,279円 (2,279円 (3,279円 (4,221件 (4,221+ (4,221	小児病棟を 対拡大したか、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ に約8000万 R5 5,100件 4,662件 MR5 31/R1)→3, R5 3,350件 3,089件 R5	増床(54床- 、増床した 当院にとっ R6 1,060人 1,075人 R6 22,195円 21,012円 り約1.1億円 円減少した R6 5,200件 4,795件 の実施へと 907件(R2)→ R6 3,400件 R6	→63床)、R 病病床は病床 ての適正な R7 1,060人 - R7 22,500円 - 円減となった。 R7 5,400件 - 変更したた 4,188件(R3 R7 3,450件 - R7	7年2月よりN 稼働率90%で 病床数を検言 R8 1,060人 	R6年度には IICUを増床 D達成いると R9 1,060人 	(15ca) 15ca 2	8より。
2)外来収益の増加 外来患者数 (一日平均) 外来診療単価 取り組みや評価 3)手術件数の増加 手術件室) 全身麻件室)	年目実年目実 年目実 備 年目実年目 医標績度標績 度標績 考 度標績度標	かった。 また。 のような背 H31/R1 1,000人 1,053人 H31/R1 18,800円 19,234円 患者数の増 射料収益が H31/R1 4,400件 4,960件 ・ 硝子体内 H31/R1 ー 3,267件 H31/R1 ー 3,267件 H31/R1 ー 63.5% ・ 分母: 定	次小景から、 R2 1,001人 985人 R2 18,800円 21,029円 加減 R2 4,550件 4,203件 中注射を除い R2 - 2,742件 R2 - 56.1% 時8時間(9:	に基づき、R 期の第3次 R3 1,060人 1,056人 R3 20,600円 21,779円 らずであり、 R3 4,550件 4,260件 の硝子体内注 た手術件数 R3 - 2,881件 R3 -	6年9月よりは け入れ能画を R4 1,060人 1,039人 R4 21,494円 21,279円 変品書 R4 5,000件 4,221件 主射を手件(H R4 3,300件 2,806件 R4 64.0% 56.5% ×手術室8室	小児病棟をか 小児病棟をか 大拡大しため、 R5 1,060人 1,062人 R5 21,694円 21,703円 は前年度よ は前年度よ 5,100件 4,662件 至外(外来)で 31/R1)→3, R5 3,350件 3,089件 R5 65.0% 62.7% ×診療日数	増床(54床- ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	→63床)、R 病床は病床での適正なで R7 1,060人 - R7 22,500円 - 円減となった。 R7 5,400件 - 変更したた 4,188件(R3 R7 3,450件 - R7 67.0% -	7年2月よりN 稼働率90%で 病床数を検言 R8 1,060人 	R6年度には IICUを増床 D達成いると R9 1,060人 	(至と 対対 対対 水 対対 で 対対 対	8000

中項目『 医業収益の拡大 』は次頁へ続く

中項目『 医業収益の拡大 』は前頁より続く

. 医	業収益の拡大												
(4	4)レセプト請求の適	正化											
	-11	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量評	平価項目
	査定率 ★小さい方が望ましい指標	目標	0.20%	0.20%	0.20%	0.30%	0.30%	0.30%	0.30%	0.30%	0.30%	対目標	▲ 0.03p
		実績	0.41%	0.35%	0.31%	0.32%	0.23%	0.27%	_	_	ı	達成率	+0.04pt
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量評	平価項目
	返戻率 ★小さい方が望ましい指標	目標	_	_	_	4.00%	4.00%	4. 00%	4.00%	4.00%	4.00%	対目標	▲ 0.66pt
	ж 3 с 7 33 б ± 3 г о 7 дам	実績	4. 43%	5.87%	4. 45%	3.93%	3. 92%	3.34%	_	_	_	達成率	▲ 0.58pt
	田左连帝口	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	計標
	現年度窓口 未収金収納率	目標	96.0%	96.0%	96.0%	95.0%	95.5%	96.0%	96.0%	96.0%	96.0%	対目標	▲2.4pt
	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	実績	94.6%	93. 7%	94.5%	93.5%	94.0%	93.6%	_	_	_	対前年	▲0.4pt
	実績 94.6% 93.7% 94.5% 93.5% 94.0% 93.6% − − 対前年 ▲0.4pt 取り組みや評価 査定や算定漏れを減らすため、医事課を中心に査定対策の検討や情報共有及び算定チェックを行った。 また、病棟の勉強会等において、診療報酬(DPC)の制度や処置行為・使用材料の算定に関する説明を行った。												

中項目『 医業収益の拡大 』評価

自己評価	委員評価
D	

I 安	定した財務状況の確	霍保										
2.	貴用の適正化											
(1)材料費の適正化											
	# 5 #11 #	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量評価項目
	薬品費比率 ★小さい方が望ましい指標	目標	_	_	_	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	対目標 ▲1.5pt
		実績	17.6%	19.6%	19.7%	19.3%	19.2%	18.5%	_	_		達成率 ▲0.7pt
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量指標
	% % 医苯 D / E B / 2	目標	_	_	_	_	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	対目標 ▲2.0pt
	│ 後発医薬品使用率 │ (数量ベース)	実績	92.6%	92.1%	93.2%	91.3%	93.6%	93.0%				対前年 ▲0.6pt
	(XXE)	備考	・定義は、	後発医薬品	使用体制加算	算における後	後発医薬品使	用率に同じ	(規格数量	の割合・加算	第1の要件9	0%以上)
		年度	1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量指標
	<i>**</i>	目標	_	_	_	_	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	対目標 +11.0pt
	後発医薬品使用率 (金額ベース)	実績	_	_	49.7%	63.9%	76.7%	81.0%				対前年 +4.3pt
	(1121)	備考	・数量ベー	スと同様の	計算を、医薬	薬品の数量で	でなく薬価に	基づいて計	算したもの			
	- A 1 1 ded	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量評価項目
	診療材料費比率 ★小さい方が望ましい指標	目標	_	1	_	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	対目標 ▲0.2pt
		実績	8.7%	9.2%	9.3%	9.4%	9.6%	9.8%	_	_	_	達成率 +0.2pt
取り組みや評価 取り組みや評価 取り組みや評価 取り組みや評価 取り組みや評価 取り組みや評価 取り組みや評価 変量ベースの使用率は目標を下回ったものの、医薬品の供給が不安定となっている中、後発医薬品使用係である90%以上を維持できている。									率が改 善 した。			

中項目『 費用の適正化 』評価

自己評価	委員評価
В	

大項目『 安定した財務状況の確保 』評価

自己評価	委員評価
D	

1)患者満足度の向上	•											
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
患者満足度	目標	_	_	_	_	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	対目標	+0.5p
(入院)	実績	_	_	89.5%	87.7%	90.0%	90.5%	_	_	_	対前年	+0.5p
	備考	・R3年度に	調査項目・	質問内容の	変更(見直し)を行ったた	め、R2年度	以前の実績	値は掲載し [・]	ていない		
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
患者満足度	目標	_	-	_	_	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	対目標	▲ 15.0
(外来)	実績	_	_	80.6%	75. 1%	73.9%	75.0 %	_	_	_	対前年	+1.1p
	備考	・R3年度に	調査項目・	質問内容の	変更(見直し)を行ったた	きめ、R2年度	以前の実績	値は掲載し [.]	ていない		
取り組みや評価 2)接遇の向上	T	の声」とし 昨年度より ち時間であ みを行い、	入院・外来 る。完全紹	の満足度が	多少向上して 導入推進や、	ているもの <i>の</i> 診察待ち時)、最も満足 間の長い診	度を低下さ 療科に医師	せる要因と ^を 事務作業補原	助者を配置	のは外来 <i>0</i> するなど <i>0</i>)診察行
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定長	
接遇研修の開催回数	 目標	- IIJ1/K1	- NZ		40	50	5回	5回	5回	5回	対目標	+3
(実地研修)	 実績	6回	3回	7回	5回	10回	80	<u> </u>			対前年	<u> </u>
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		<u></u> 計標
	 目標	_	_	_	200人	200人	200人	200人	200人	200人	対目標	+91
接遇研修の参加者数 (実地研修)	実績	217人	133人	187人	206人	270人	291人	_	_	_	対前年	+21
	備考	・参加者数	は、全開催	回の合計で	 ある(各回の	ア均ではな	:(\)					
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	
接遇研修受講率 (Eラーニング)	目標	_	_	_	_	_	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	対目標	+8.7p
	実績	_	_	_	_	_	98.7%	_	_	_	対前年	_
取り組みや評価	T i	時間外の研 参加者以外	修では、時 にも研修内		加が難しい記 ため、実地研	参療局25名の 肝修の参加者)参加がある	など、一定			実地研修に	には参加
3)広報活動の強化	J	1104 /04	D0	50	54	D.F.	D.	5.5	D 0	D.C.		1 †F: †#=
八甲基本中二半年	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	_	指標 4
公開講座回数	目標	116		200	9回	14回	14回	14回	14回	14回	対目標	<u>▲4</u>
		11回 H31/R1	0回 R2	2回 R3	7回 R4	10回 R5	10回 R6	 R7			対前年	±0 計標
広報誌の	 目標	ПЭТ/КТ		_ K3	4 _□	4 _□	4 _□	4 _□	4 _□	4回	対目標	<u> </u>
発行回数	 実績	4回	4回	4回	40	40	40	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	対前年	± 0
取り組みや評価		公開講座に 特に、「呼 病院広報誌	ついては、 吸器呼吸法	認定看護師 [・] を取り入れ	や医師による た運動のする	る講座を開設 すめ」の講座	とし、より市		接顔の見え	る関係づく		且んだ。

中項目『 患者サービスの向上 』評価

自己評価	委員評価
0	

П	患	者サービスの向上と	良質な	医療の提供	ţ									
2	2. 診療の質の向上と効率化													
	(1)クリティカルパスの積極的活用													
		5 H = 2 + H 10° 7	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
		クリティカルパス 作成・見直し件数	目標	-	_	l	I	120回	120回	120回	120回	120回	対目標	+186
		11/20 70 20 11 20	実績	186回	196回	71回	126回	210回	306回	_	_	_	対前年	+96
		511= . ± 11 18=	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
		クリティカルパス 適用率	目標	50.0%	50.0%	50.0%	55.0%	55.0%	55.0%	55.0%	55.0%	55.0%	対目標	▲ 2.8pt
		旭 加十	実績	50.9%	47.8%	51.8%	50.0%	50.5%	52.2%	_	_	_	対前年	+1.7pt
		取り組みや評価		1. 患者用	成・見直しん パス(クリ [・]	件数内訳【휚	新規作成:1 スの患者説明	2件 改訂:	で訂や修正を 11件 患者 「未作成であ	用パスのみ	作成:26件	率が上昇し7 軽微な修〕	さ。 E:257件]

中項目『 診療の質の向上と効率化 』評価

自己評価	委員評価
В	

Ⅱ患	者サービスの向上と	良質な	医療の提供	 									
3. 救	対急医療の強化												
(1	1)救急車受入台数の	増加・	救急応需率	図の向上									
	北 名丰英 7 / 1 / 1 / 1	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	量指標
	救急車受入件数 (三次救急)	目標	_	_	_	1,700件	1,500件	1,500件	1,500件	1,500件	1,500件	対目標	+338
	(//\f\/\E//	実績	1,683件	1,168件	1,180件	1,414件	1,707件	1,838件	_	_	_	対前年	+131
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	計標
	三次救急応需率	目標	_	_	_	100.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	対目標	+5.9pt
		実績	95.4%	74.1%	66.5%	67.3%	76.7%	85.9%	_	_	_	対前年	+9.2pt
	数 刍声码 λ <i>供</i> 数	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	計標
	救急車受入件数 (二次救急)	目標	_	_	_	3,800件	3,900件	4,000件	4,100件	4,200件	4,300件	対目標	+439
	(, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	実績	3,667件	2,818件	3,593件	3,973件	4,884件	4,439件	_	_	_	対前年	▲ 445
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		計標
	二次救急応需率	目標	_	_	_	93.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	対目標	▲14.0pt
		実績	91.9%	77.8%	75. 2%	58.9%	68.3%	66.0%	_	_	_	対前年	▲ 2.3pt
	取り組みや評価	II	の受入要請 二次救急に 改善するこ なお、R5年 かったため R7年度につ 【参考:R7 R6年4-	はほぼ応需、 はいがから見い でら見ららい で度の指標の に で で で り の に で の に で の り の ら の ら の に の に の に の に の に の に の に の に	できており、 比較的人員 ものの、件数が 年度にかけっ 次数善状況】 三次救急	応需できて を確保しやす 3日中のみの が445件減少 ての減少分に	「いない事例」 「い平日日中 」 ひさいるが、 はほぼ小児患 6年度を大き (応需率85.	、R5年度はR 計者であった Fく上回るペ 1%) 二次	からの要請 善などせいる Sウイルス 。 ース 改 受 、 教急 受入	であった。 り組み、取り は至らなかっ O大流行で小	リ組んだ時間 った。 小児の救急搬 る。 S需率67.5%	間帯では応 送が特異 ら)	で 需率を

中項目『 救急医療の強化 』評価

自己評価	委員評価
C	

1)母体搬送受入件数	女の増加]										
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	
 母体搬送受入件数	目標	70件	75件	75件	70件	70件	70件	70件	70回	70回	対目標	+34
	実績	75件	56件	63件	98件	103件	104件	_	_	_	対前年	+1
取り組みや評価	西	今後も東葛		件数が当面額	半い、東葛‡ 維持されると						め、引き網	売き受け
	受入れ	強化										
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
分娩件数	目標	650件	700件	700件	700件	700件	700件	700件	700件	700件	対目標	+65
	実績	707件	738件	750件	690件	725件	765件	_	_	_	対前年	+40
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	<u></u> 指標
早産件数 (37週未満)	目標	_			90件	90件	90件	90件	90件	90件	対目標	+71
(37週本河)	実績	76件	99件	90件	121件	126件	161件	_	_	_	対前年	+35
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		指標
	目標	_	_	_	150件	150件	150件	150件	150件	150件	対目標	+77
ハイリスク分娩	実績	153件	149件	167件	257件	199件	227件	_	_	-	対前年	+28
受入件数	備考				<u> </u>			法が質字が	<u></u> 免)	1	7.3 J33 T	
取り組みや評価	西	母体の高齢 母体搬送や	化、生殖医 ハイリスク:	寮による妊タ 分娩の受け、	れ増に加え、 振数の増加は 入れを増加す ふじて各指様	こ伴いハイリ するには産科	スク分娩の と新生児科	割合が増えの両方の受	てきたと思っ け入れ能力が	われる。 が必要であ ^り		
	2	(1120)		30 - 7 3227 (1 - 7	4 [1][,,,, -XII 0 1	., .,,,,,,,	3124382 31		- 10		
	_				T		5.4	5.5		D0		1464番
	年度	H31/R1	R2	R3	R <i>∆</i>	R5	l R6	R'/	l RX	l R9	1 定量	3 4 - / -
新入院患者数	年度日標	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	おり日標	
	目標	360人	360人	360人	400人	400人	400人	R7 410人	R8 420人	R9 430人	対目標	+167
新入院患者数 (新生児科)	目標実績	360人 408人	360人 399人	360人 344人	400人 421人	400人 468人	400人 567人	410人 一	420人 一	430人 一	対目標 対前年	+167 +99
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数	目標 実績 年度	360人 408人 H31/R1	360人 399人 R2	360人 344人 R3	400人 421人 R4	400人 468人 R5	400人 567人 R6	410人 — R7	420人 一 R8	430人 — R9	対目標 対前年 定量	+167 +99 指標
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重	目標 実績 年度 目標	360人 408人 H31/R1	360人 399人 R2 —	360人 344人 R3	400人 421人 R4 30人	400人 468人 R5 30人	400人 567人 R6 30人	410人 一	420人 一	430人 — R9 30人	対目標 対前年 定量 対目標	+167 +99 <u></u> 告指標 +8
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数	目標 実績 年度 目標 実績	360人 408人 H31/R1 - 29人	360人 399人 R2 - 29人	360人 344人 R3 - 25人	400人 421人 R4 30人 47人	400人 468人 R5 30人 39人	400人 567人 R6 30人 38人	410人 — R7 30人 —	420人 - R8 30人 -	430人 — R9 30人 —	対目標 対前年 定量 対目標 対前年	+165 +99 指標 +8 ▲1
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満)	目標 実績 年度	360人 408人 H31/R1	360人 399人 R2 —	360人 344人 R3	400人 421人 R4 30人 47人 R4	400人 468人 R5 30人 39人 R5	400人 567人 R6 30人 38人 R6	410人 — R7 30人 — R7	420人 — R8 30人 — R8	430人 — R9 30人 — R9	対目標 対前年 定量 対前年 定量	+167 +99 指標 +8 ▲1
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満) 病床利用率	目標 実績 年標 実態 年標	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1	360人 399人 R2 - 29人 R2	360人 344人 R3 - 25人 R3	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0%	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0%	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0%	410人 — R7 30人 — R7 90.0%	420人 - R8 30人 -	430人 — R9 30人 — R9 90.0%	対目標 対前年 定量 対前年 定量 対前年 対前年	+167 +99 計標 +8 ▲1 計標 +7.9p
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満)	目標 実 目 実 年 目 実 得 景 長 標 積	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7%	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9%	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9%	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0%	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4%	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9%	410人 — R7 30人 — R7	420人 — R8 30人 — R8	430人 — R9 30人 — R9	対目標 対前年 定量 対前年 定量	+167 +99 計標 +8 ▲1 計標 +7.9p
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満) 病床利用率 (稼働率)	目標 実績 年標 実態 年標	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7%	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9%	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9%	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0%	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4%	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9%	410人 — R7 30人 — R7 90.0%	420人 — R8 30人 — R8	430人 — R9 30人 — R9 90.0%	対目標 対前年 定量 対前年 定量 対前年 対前年	+167 +99 計標 +8 ▲1 計標 +7.9p
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満) 病床利用率 (稼働率)	目実年目実年目実 備	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7% ・稼働病床 第3次経営 常勤医師可 設、県内外	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9% 数に対する。 計増員となった。 の周産期セ	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9% 病床利用率 き、R7年2月 とでNICU運り い児科との	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0%	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4% であり、退防 15床から18月 ミスリ転大院 ま持し、業棟取 は持し、入院	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9% 患者含む 床へ増床している。 ほれのタイミ に科のタイミ	410人 - R7 30人 - R7 90.0% - (R6実績か ががより) クトランス	420人 - R8 30人 - R8 90.0% - の影響は軽 重症患者・ 適切になり・	430人 - R9 30人 - R9 90.0% -	対目標 対前年 対目標 対前年 対前年 対前年 対前年	+167 +99 計標 +8 ▲1 計標 +7.9p +4.5p
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満) 病床利用率 (稼働率) (NICU)	目実年目実年目実 備	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7% ・稼働病床 第3次経営 常勤医師可 設、県内外	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9% 数に対する。 計増員となった。 の周産期セ	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9% 病床利用率 き、R7年2月 とでNICU運り い児科との	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0% 89.8% (稼働率)で はりNICUを 用の修正がり の連携強化に 好な関係を約	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4% であり、退防 15床から18月 ミスリ転大院 ま持し、業棟取 は持し、入院	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9% 患者含む 床へ増床している。 ほれのタイミ に科のタイミ	410人 - R7 30人 - R7 90.0% - (R6実績か ががより) クトランス	420人 - R8 30人 - R8 90.0% - の影響は軽 重症患者・ 適切になり・	430人 - R9 30人 - R9 90.0% -	対前年対前年対対前を標が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対	+167 +99 計標 +8 ▲1 計標 +7.9p +4.5p
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満) 病床利用率 (稼働率) (NICU)	目実年目実年目実 備	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7% ・稼働病床 第3次経営 常勤医が所 け入、県内外 増加を目指	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9% 数に対する 計画にしたっち 能局にしな産期でした。MR	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9% 病床利用率 き、R7年2月 とでNICU運 の小児科との ンターと良好 SA対策を継続	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0% 89.8% (稼働率)で はりNICUを 用の修正がり の連携強化に 好な関係を終	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4% であり、退院 15床から18月 長現り転入所 は持し、よる損	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9% 記書含む 床へ増床した 系の適正化、 気ののタイミ 会体頼やバッ 食失を回避し	410人 - R7 30人 - R7 90.0% - (R6実績か ンクトい。	420人 - R8 30人 - R8 90.0% - の影響は軽 重症患者 適切になり ファーのハー	430人 - R9 30人 - R9 90.0% - E微) や小児外科 つつある。カードルを下し	対前年対前年対対前を標が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対	+167 +99 計標 +8 ▲1 計標 +7.9p +4.5p
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満) 病床利用率 (稼働率) (NICU)	目 実 年 目 実 年 目 実 備 年 度 標 績 度 標 績 度 標 き し き し き し き り し き り き り し き り も り も り も り も り も り も り も り も り も り	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7% ・稼働病床 第3次経 党 前入、県 増加を目指 H31/R1	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9% 数に対する 対にしな産 にしな産期のしたい。MR	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9% 病床利用率 き、R7年2月 とでNICU運 いり見料との ンターと良好 SA対策を継続	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0% 89.8% (稼働率)で はりNICUを 用の修正が導 の連携強化に 好な関係床制	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4% ごあり、退防 15床から18 見現り転、大 計りによる指 間限による指	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9% 記書含む 未へ増床した 所の適正化くこ 所の適でインツ は大を回避し R6	410人 - R7 30人 - R7 90.0% - (R6実績/ かングトランス たい。	420人 R8 30人 R8 90.0% の影響は車 重症患者・ 適切になり・ ファーのハー	430人 R9 30人 R9 90.0% E微) や小児外科 つつある。カードルを下口	対前に関する。対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が	+167 +99 計標 +8 ▲1 指標 +7.91 +4.51 をの分娩が こ新入防
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満) 病床利用率 (NICU) 取り組みや評(360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7% ・稼働病床 第3次経営 常勤医が所 設、県内外 増加を目指 H31/R1 350人	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9% 数に対する 計画に基たっ があった。 の問い。MR	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9% 病床利用率 さ、R7年2月 とでNICU運 ら、小児科との ンターと良数 SA対策を継続	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0% 89.8% (稼働率)で はいNICUを 用の修正がり の連携強化に 好な関係を 続し、病床制 R4 360人	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4% ごあり、退防 毛現り転乗取 手現しい転乗取 手はいよるが 割限によるが R5 360人	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9% 記患者含む 床へ増床した。 ほかのタイミ は頼やバッ 食失を回避し R6 360人	410人 - R7 30人 - R7 90.0% - (R6実績/ かングトランス たい。	420人 R8 30人 R8 90.0% の影響は車 重症患者・ 適切になり・ ファーのハー	430人 - R9 30人 - R9 90.0% - 経微) や小児外科! つつある。」 ードルを下し	対前に 対前に 目標に 対対が 目前に 目前に 目前に 目前に のののさ にでででする。 にででする。 にできる。 にで。 にできる。 にでを。 にできる。 にでを。 にでをできる。 にできる。 にできる。 にでをできる。 にできる。 にできる。 にできる。 にできる	+167 +99 計標 +8 ▲1 指標 +7.9g +4.5g
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満) 病床利用率 (NICU) 取り組みや評(360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7% ・稼働病床 第3次経常的 け入、県内外増加を目指 H31/R1 350人 363人	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9% 数に対する 数に対する 対したのは にしな産期 したのしたい。MR R2 350人 314人	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9% 病床利用率 さ、R7年2月 シックーと良好 SA対策を継続	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0% 89.8% (稼働率)で はりNICUを 用の修正がり の連携係を終 続し、病床 R4 360人 314人 R4	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4% ごあり、退防 15床から18別 長現りし、よる 関連による 18時による 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9% 記患者含む 床へ増床し、 系の適正イ、ミ 依頼やバッリ 失を回避し R6 360人 418人 R6	410人 - R7 30人 - R7 90.0% - (R6実績/ かンクトい。 R7 360人 - R7	420人 - R8 30人 - R8 90.0% - の影響は軽、 重症患者・ 適切になり・ ファーのハー	430人 - R9 30人 - R9 90.0% - を微) や小児外科 つードルを下し R9 360人 - R9	対対	+167 +99 計標 +8 ▲1 指標 +7.9p +4.5p
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満) 病床利用率 (NICU) 取り組みや評(目実年目実 備 年目実年目	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7% ・稼働病床 第3次経節が け入、県内 増加を目指 H31/R1 350人 363人 H31/R1	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9% 数に対する 数に対する 前単しな産期にしな産期でしたのしたい。MR R2 350人 314人 R2	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9% 病床利用率 さでNICU運り いり、中でNICU運り かりをというがある対策を継続 R3 350人 327人 R3	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0% 89.8% (稼働率)で よりNICUを 用の修強化に 好な関係を終 続し、病床制 R4 360人 314人 R4 3,500人	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4% であり、退防 15床から18時 見以り転乗内 計りによる 計限による 406人 R5 3,500人	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9% 患者含む 未へ適正化、 系の適でインツ 食失を回避し R6 360人 418人 R6 3,500人	410人 - R7 30人 - R7 90.0% - (R6実績/ 新ングトンス たい。	420人 - R8 30人 - R8 90.0% 	430人 - R9 30人 - R9 90.0% 	対対 対対 対対 目前に 目前に 目前に 目前に 目前に 目前に 目前に 目前に	+167 +99 指標 +8 ▲1 指標 +7.9年 +4.5年 か分娩が 下新入防 指標 +58 +12 指標 +399
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満) 病床利用率 (NICU) 取り組みや評(目実年目実 備 年目実年目実標績度標績度標績 考 医標績度標績	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7% ・稼働病床 第3次経節だけ入、県内外増加を目指 H31/R1 350人 363人 H31/R1 - 3,351人	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9% 数に対する 対に対する 対したったのしたい。MR: R2 350人 314人 R2 - 2,459人	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9% 病床利用率 き、R7年2月 とでNICU運 い小児科と良 らA対策を継続 R3 350人 327人 R3 - 3,128人	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0% 89.8% (稼働率)で はいいにいを 可必修強化に がらない。 おいにいる ののでは では、 ののでは ののでは ののでは ののでは ののでは ののでは	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4% ごあり、退防 15床から戦棟入る 見現りし、よる 15限し、よる 1580人 1580人 1580人 1580 1580 1580 1580 1580 1580 1580 1580	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9% 記書含む 末へ増床し、 活めのタイ・ミ は、 は、 なが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 の	410人 - R7 30人 - R7 90.0% - ** (R6実績/ かんだがらい。 ** R7 360人 - R7 3,500人 - - - - - - - - - -	420人 - R8 30人 - R8 90.0% - の影響は軽 重症患者が 可になりが ファーのハー	430人 - R9 30人 - R9 90.0% - 経微) や小児外科 つつおる。 ードルを下い R9 360人 - R9 3,500人	対対 対対 目前 目前 目前 ののさ 目前 目前 目前 目前 目前 目前 目前 目前 目前 目前 目前 目前 日前 日前	+167 +99 計標 +8 ▲1 指標 +7.9年 +4.5年 をの分娩が 下 新入院 11 14 15 15 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者重 1500g未満) 病床利用率 (NICU) 取り組みや評例 (NICU) 取り組みや評例 (PICU入室患者数 所入院患病棟)	目実年目実 年目実 備 年目実年目実年	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7% ・稼働病床 第3次経節が け入、県内 増加を目指 H31/R1 350人 363人 H31/R1	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9% 数に対する 数に対する 前単しな産期にしな産期でしたのしたい。MR R2 350人 314人 R2	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9% 病床利用率 さでNICU運り いり、中でNICU運り かりをというがある対策を継続 R3 350人 327人 R3	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0% 89.8% (稼働率)で はいいでである。 はいいではないである。 おいではいである。 おいではいである。 はいいではいである。 はいいではいである。 はいいではいである。 はいいではいである。 はいいではいである。 はいのではいである。 はいのではいである。 はいのではいである。 はいのではいである。 R4 3,500人 3,163人 R4	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4% であり、退防 15床から18月 長現りし転入る は持しによる は持しによる 187 85 360人 406人 R5 3,500人 3,759人 R5	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9% 記書含む 末へ増床し、 ぶのあタイ・ツ は、 は、 な種ののと なが、 ないののと ないのののと ないののと ないののと ないののと ないののと ないののと ないののと ないののと ないののと ないのののと ないのののと ないのののと ないのののと ないのののと ないのののと ないのののと ないのののと ないのののと ないのののと ないのののと ないのののののの。 ないのののと ないのののの。 ないののののののの。 ないののののののののの。 ないののののののののののの。 ないののののののののののののの。 ないののののののののののの。 ないのののののののののののののの。 ないのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	410人 - R7 30人 - R7 90.0% - (R6実績/ かンクトン。 R7 360人 - R7 3,500人 - R7	420人 - R8 30人 - R8 90.0% - の影響は軽、 重症患者が 適切になりで ファーのハー	430人 - R9 30人 - R9 90.0% - 経微) や小児外科! つつある。 コードルを下し R9 360人 - R9 3,500人 - R9	対対対対疾地ず目前目前ののさ目前目前目前目前目前目前目前定標年定標量	+167 +99 計標 +8 ▲1 指標 +7.9 p +4.5 p (ア分分人) P を分娩が を対象が 上指標 +58 +12 計標 +14(計標 +399 +14(計標
新入院患者数 (新生児科) 新入院患者数 (出生体重 1500g未満) 病床利用率 (NICU) 取り組みや評(目実年目実 備 年目実年目実年目実年目実年目実年目	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7% ・稼働病床 第3次経管 けみ、県内外 増加を目指 H31/R1 350人 363人 H31/R1 - 3,351人 H31/R1	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9% 数に対する 対に対する 対にしな産いのしたい。MR: R2 350人 314人 R2 - 2,459人 R2 -	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9% 病床利用率 き、R7年2月 とでNICU運 い小児科と良い らA対策を継続 R3 350人 R3 - 3,128人 R3 -	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0% 89.8% (稼働率)で はりNICUを 司の修強強を制 ではいいで の連携係を制 ではいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいいで のはいで のは	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4% ごあり、退防 15床か、転棟入 15味し、転 15現りし、よる 15現りし、よる 15現りし、よる 15現りし、よる 179人 R5 3,500人 3,759人 R5 90.0%	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9% 記書含む 床へ適正ケイン 高のタケバッ 大を回避し R6 360人 418人 R6 3,500人 3,899人 R6 90.0%	410人 - R7 30人 - R7 90.0% - ** (R6実績/ かんだがらい。 ** R7 360人 - R7 3,500人 - - - - - - - - - -	420人 - R8 30人 - R8 90.0% - の影響は軽 重症患者が 可になりが ファーのハー	430人 - R9 30人 - R9 90.0% - を微) や小児外科 つつおる。カードルを下し R9 360人 - R9 3,500人 - R9 90.0%	対対 対対 対対 対対 目前 目前 目前 目前 目前 目前 目前 目前 目前 目前 定標年 量	+167 +99 計標 +8 ▲1 指標 +7.9年 +4.5年 極的分娩入 下 新子 本 12 計標 +12 計標 +12 計標 +14 ・14 ・18 ・18 ・18 ・18 ・18 ・18 ・18 ・18
新入院患者数 (新生児 新入院患者重 1500g未 病床を動 (NICU) 取り組みや評(4)小児医療の充実 PICU入室患者数 (小児児) 病床利用率	目実年目実 年目実 備 年目実年目実年	360人 408人 H31/R1 - 29人 H31/R1 - 99.7% ・稼働病床 第3次経管 け入、県内外 増加を目指 H31/R1 350人 363人 H31/R1 - 3,351人 H31/R1 - 97.0%	360人 399人 R2 - 29人 R2 - 100.9% 数に対するが 計画員と問題にしな産期のしたい。MR R2 350人 314人 R2 - 2,459人 R2 - 72.9%	360人 344人 R3 - 25人 R3 - 87.9% 病床利用率 さ、N7年2月 シックーととが SA対策を継続 R3 350人 R3 - 3,128人 R3 - 83.0%	400人 421人 R4 30人 47人 R4 100.0% 89.8% (稼働率)で はいいでである。 はいいではないである。 おいではいである。 おいではいである。 はいいではいである。 はいいではいである。 はいいではいである。 はいいではいである。 はいいではいである。 はいのではいである。 はいのではいである。 はいのではいである。 はいのではいである。 R4 3,500人 3,163人 R4	400人 468人 R5 30人 39人 R5 90.0% 93.4% ごあり、退防 15床から18 長現り転乗取 計りによる 排限による 406人 R5 3,500人 3,759人 R5 90.0% 93.5%	400人 567人 R6 30人 38人 R6 90.0% 97.9% 記書含む 未へ増床し、 系の適正インツ は大を回避し R6 360人 418人 R6 3,500人 3,899人 R6 90.0% 88.8%	410人 - R7 30人 - R7 90.0% - (R6実績/ かンクトン。 R7 360人 - R7 3,500人 - R7	420人 - R8 30人 - R8 90.0% - の影響は軽、 重症患者が 適切になりで ファーのハー	430人 - R9 30人 - R9 90.0% - 経微) や小児外科! つつある。 コードルを下し R9 360人 - R9 3,500人 - R9	対対対対疾地ず目前目前ののさ目前目前目前目前目前目前目前定標年定標量	+167 +99 計標 +8 ▲1 指標 +7.9 p +4.5 p (ア分分人) P を分娩が を対象が 上指標 +58 +12 計標 +14(計標 +399 +14(計標

中項目『 周産期・小児医療の強化 』評価

自己評価	委員評価
В	

Ⅱ患	者サービスの向上と	こ良質な	医療の提供	ţ									
5. ±	地域がん診療連携拠	点病院	機能の強化										
	(1)がん診療への積極	的取組	み										
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量指標	
	1 1 1 - 11 111	目標	520件	530件	530件	600件	620件	640件	660件	660回	660回	対目標	▲81
	がん手術件数	実績	556件	462件	459件	427件	535件	559件	_	_	_	対前年	+24
		備考	・定義は、	がん診療連	携拠点病院の	の指定要件の)「悪性腫瘍	の手術件数	」に同じ(要件400件以	上)		
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
	1 % / ++++-+>-	目標	1,700人	1,800人	1,800人	2,100人	2,100人	2,100人	2,100人	2,100人	2,100人	対目標	▲ 51
	がん薬物療法延べ患者数	実績	1,801人	2,048人	2,065人	1,962人	1,833人	2,049人	_	_	_	対前年	+216
	延八忠 有奴	備考			携拠点病院の えるため、st						要件1,000人	以上)	
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
		目標	410人	420人	420人	300人	300人	300人	300人	300人	300人	対目標	▲ 16
	放射線治療 延べ患者数	実績	335人	361人	393人	375人	389人	284人	I	_	I	対前年	▲ 105
	延八志召奴	備考			携拠点病院の くと数えるた						以上)		
	取り組みや評価	西	ダヴィンチ R5年度:	による手術 66件 ⇒	件数全体とN についても、 R6年度:82何 、近隣で27	. 導入(R5. 牛(消化器タ	1初症例)以 ト科と泌尿器	【降、着実に 料で実施)	件数が増加	している		かした。	

中項目『 地域がん診療連携拠点病院機能の強化 』評価

自己評価	委員評価
C	

П	患	者サービスの向上と	良質な	医療の提供	ţ									
6.	災	害拠点病院機能の引	強化											
	(1)災害医療体制の強	化											
		BCP(事業継続計画)	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
		の継続的な見直し	目標	_	-	_	_	実施	実施	実施	実施	実施	定性	指標
		※字医索数	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
		災害医療救護訓練 の実施	目標	_	ı	_	1回	2回	2回	2回	2回	2回	対目標	▲ 1
		***************************************	実績	1回	0回	0回	0回	1回	1回	_	_	_	対前年	±0
			年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
			目標	_	-	_	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム	対目標	±0
		DMATのチーム数	実績	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム	_	_	_	対前年	±0
			備考	平時におい	1ては、日本	□DMATを2チー	ーム編成でき	きるように隊	対員数を維持	していくこ	とを目標とし	している		
	備考 平時においては、日本DMATを2チーム編成できるように隊員数を維持していくことを目標としている BCPについては、救急・災害医療対策委員会を中心に、ワーキンググループで内容を検討している。 災害医療救護訓練については、令和6年12月に平日日中に震度5強の地震が発生したことを想定し、「災害対策本部の情管理・情報収集、管理、分析、発信」をテーマに災害本部立上げから部署別状況報告から情報整理、災害レベルの決定院内周知までの流れを確認した。													

中項目『 災害拠点病院機能の強化 』評価

自己評価	委員評価
В	

Ⅱ患	者サービスの向上と	良質な	医療の提供	Ħ.								
7. 地	也域医療連携の推進											
(1	1)地域医療支援病院	機能の	強化									
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量指標
	4π Λ 	目標	68.0%	69.0%	69.0%	70.0%	72.0%	74.0%	75.0%	75.0%	75.0%	対目標 +1.5pt
	紹介率	実績	67.6%	65.8%	69.0%	68.1%	76.0%	75. 5%	_	_	_	対前年 ▲0.5pt
		備考	・定義は、	地域医療支	援病院の承認	忍要件におけ	ける「紹介率	三」に同じ				
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量指標
	>¥47 A →	目標	118.0%	120.0%	120.0%	120.0%	120.0%	120.0%	120.0%	120.0%	120.0%	対目標 +17.9pt
	逆紹介率	実績	113.5%	118.4%	126.0%	122.9%	152.9%	137.9%	_	_	_	対前年 ▲15.0pt
		備考	・定義は、	地域医療支	援病院の承記	忍要件におけ	ける「逆紹介	率」に同じ				
	医病性四类の	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量指標
	医療機器等の 共同利用件数	目標	_	_	_	500件	500件	500件	500件	500件	500件	対目標 ▲226
		実績	487件	360件	400件	408件	362件	274件		_	_	対前年 ▲88
	取り組みや評価	5	医療機器等								・MRI検査の	実施日(予約枠)
(2	2)関連医療機関との				_							
	医療機関	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量指標
	訪問件数	目標	_	_	_	70件	70件	80件	80件	80件	80件	対目標 +545
		実績	43件	56件	46件	50件	84件	625件		_	-	対前年 +541
	 病院情報誌の	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量指標
	発行回数	目標	145	140	140	14回	14回	14回	14回	14回	14回	対目標 ±0
		実績	14回	14回	14回	14回	14回	14回		_		対前年 ±0
	取り組みや評価	T	の訪問活動 り、医療機 複あり)、 連携医療機	を実施した 関への訪問 訪問エリア 関に対して	ほか、病院や	や福祉施設へ (主にクリニ 新規紹介患者 まとして下訂	、の訪問(22 ニック)を構 が増の獲得に 日を合計14回	21件※重複な 式会社ニチ 向けた取り]作成・配付	5り)も継続 イ学館に委 組みを実施 を行った。	売して実施し 託したこと!	た。また、	ためクリニックへ 令和6年9月よ 牛数増(404件※重

中項目『 地域医療連携の推進 』評価

自己評価	委員評価
D	

I 患者	者サービスの向上と	良質な	:医療の提供	ţ									
8. リ	ハビリテーション	機能の引	強化とチー.	ム医療の充	実								
(1)リハビリテーショ	ン提供	体制の強化	í									
	リハビリテーション	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
	総単位数(月平均)	目標	_	_	_	6,820単位	10,800単位	13,500単位	13,000単位	13,000単位	12,500単位	対目標	▲ 1,782
	100 1 12200 (75 1 - 57	実績	5,034単位	4,957単位	5,093単位	7,037単位	9,784単位	11,718単位	_	_	_	対前年	+1, 934
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
	11.01211 = 22.	目標	_		_	31人見込	38人見込	47人見込	45人見込	45人見込	44人見込	対目標	±0
	リハビリテーション スタッフ数	実績	21人	24人	24人	31人	38人	47人	_	_	_	対前年	+9
Ш	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	備考			職員の異動 総単位数は2				として設定	した指標であ	ある		
	取り組みや評価	T i	【参考】	目標算出方 R6年度 R7年度	り実稼働人数 法 スタップ 15.0単位/E 15.5単位/E 5たりの目標	71人あたり H × 39名 H × 36名	の目標提供! × 20日 = × 20日 =	単位数 × ´ 11,700単位 11,160単位	日平均の出 :/月 :/月 (R7年	:勤者数 × 4月~7月実紙	20日(月平 績:12,191 <u>章</u>	均稼働日 単位/月)	数)
(2	!)チーム医療の充実												
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
	加算取得の	目標	-	ı	_	10チーム	11チーム	12チーム	13チーム	13チーム	13チーム	対目標	+3
	要件となっている チーム数	実績	5チーム	6チーム	7チーム	10チーム	14チーム	15チーム	_	_	_	対前年	+1
) Д	備考	・診療報酬	の加算対象	のチームのる	みを集計対象	きとしている)					
	取り組みや評価 R6年度は、小児患者搬送チームを新設した。 加算取得の対象外チームも含むと、多職種で構成された合計18チームが様々な専門分野で活躍している。												

中項目『 リハビリテーション機能の強化とチーム医療の充実 』評価

自己評価	委員評価
В	

大項目『 患者サービスの向上と良質な医療の提供 』評価

自己評価	委員評価
C	

ШЕ	医療	安全の徹底												
1.	1. 安全・安心な医療の提供													
	(1)[医療安全対策の促	進											
		/ > . > . - "> . 1	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
		インシデント 報告件数	目標	3,600件	3,600件	4,000件	5,000件	5,000件	5,000件	5,000件	5,000件	5,000件	対目標	+1,616
		1K II 1 3X	実績	4,082件	4,261件	5,079件	5,475件	6,574件	6,616件	1	1	1	対前年	+42
		医链心积生化粉	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
	(-	医師の報告件数 インシデント報告)	目標	-	_	1	1	300件	300件	300件	300件	300件	対目標	▲ 47
	Ĺ		実績	157件	153件	140件	125件	197件	253件	1	ı	ı	対前年	+56
		医病中心理核心	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
		医療安全研修会 受講率	目標	85.0%	85.0%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	対目標	± 0.0 pt
		A H7	実績	96.9%	93.7%	95.1%	100.0%	100.0%	100.0%	I	I	I	対前年	±0.0pt
		取り組みや評価	5	め、毎月院 いかと考え	内メールで ている。レ	数増加に向け 知らせた。R ベル0報告が てもらった。	5年度より微 がありすぎて	ぬ増しており	、報告対象	の内容をイ	メージできる	るようになっ	ってきたの	つではな

中項目『 安全・安心な医療の提供 』評価

自己評価	委員評価
В	

шк	一 「 「 「 「 「 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 に 」 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に に に に に に に に に に に に に												
	医療安全の徹底 2. 感染防止活動の強化												
	(1)感染防止対策の推	<u></u> 進											
		年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
	研修会の開催回数 (感染対策)	目標	_	_	_	10回	15回	15回	20回	20回	20回	対目標	+15
	(1887197)	実績	4回	4回	10回	38回	41回	30回	_	_	ı	対前年	▲ 11
	生はくの土壌活動	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
	地域への支援活動(応需率)	目標	_	_	_	_	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	対目標	+10.0pt
	(#B-IIII 1-7	実績	_	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	_	_	_	対前年	± 0.0 pt
	取り組みや評価	5	同ネットワ ・保健所や ・MRSAの拡 結した施設	感染症内科とのないでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	を有すなとなっています。 おり 別島と今る病のでは、 の	完 に に に に に に に に に に に に に	多職種によ 呼価と対策 が成と対策 が表す が が が が が が い い い い い で し で し で し で け い い い い い い い い い い い い い い い い い い	る連携を強き関連の連携を強用を受けます。 を関連のと連携を受ける。 の事ととは、 の事とは、 は、 の感染がでの感染ができる。 ののできる。 のので。 ののでを。 ののでを。 ののでを。 ののでを。 ののでを。 ののでを、 ののでを。	化でS計集 でS計 でSi で い で い で り い の い を の い の い を の い の の の の の の の の の	、当院におりたった。 いった。 経室における 連携や地域が 当室スタップ 対策を検、加え 対策を施、加え	ナるAST、IC 看護職員研 病院・施設/ フが代表幹 する方針とな	T活動をは 修体制の1 修体指導も いの指導も なって なった。	じめと 立案・調 強化し

中項目『 感染防止活動の強化 』評価

自己評価	委員評価
A	

大項目『 医療安全の徹底 』評価

自己評価	委員評価
В	

材の育成)医師教育の充実												
/ ELPHANISTON	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
- 専門医・指導医数	目標	—	_	_	90人	90人	90人	90人	90人	90人	対目標	+
	実績	88人	87人	90人	85人	99人	96人	_	_	_	対前年	
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		指標
専攻医数	目標	_	_	_	30人	30人	30人	30人	30人	30人	対目標	4
(後期研修)	実績	29人	35人	28人	32人	28人	24人	_	_	_	対前年	4
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
初期研修受験者数	目標	55人	55人	55人	70人	72人	74人	75人	75人	75人	対目標	+1
	実績	62人	71人	69人	70人	105人	178人	_	_	_	対前年	+
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
論文執筆数	目標	_	_	_	25編	25編	25編	25編	25編	25編	対目標	
	実績	26編	23編	26編	24編	34編	集計中	_	_	_	対前年	
	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
学会発表数	目標	_	_	_	140回	140回	150回	150回	150回	150回	対目標	
	実績	145回	94回	122回	140回	157回	集計中	_	_	_	対前年	
取り組みや評価		す。 研修医受験				が来ておりま	きす。その中	でも当院の	見学などの	受け入れも行	テっており	ノ安制
		研修医受験 も増えてき	ていると考	えておりま	す 。							
	年度	研修医受験			R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	遣指標
)看護教育の充実 研修会の開催回数	目標	研修医受験 も増えてき H31/R1	ていると考 R2 -	えておりま ⁻ R3 -	す。 R4 60回	R5 60回	R6 60回				定量対目標	遣指標
)看護教育の充実	目標実績	研修医受験 も増えてき H31/R1 - 70回	ていると考 R2 - 46回	えております R3 - 54回	R4 60回 54回	R5 60回 62回	R6 60回 66回	R7 60回 —	R8	R9	定量	遣指標 +
)看護教育の充実 研修会の開催回数	目標	研修医受験 も増えてき H31/R1 - 70回	ていると考 R2 - 46回	えておりま ⁻ R3 -	R4 60回 54回	R5 60回 62回	R6 60回	R7 60回 —	R8	R9	定量 対目標 対前年	遣指標 + +
)看護教育の充実 研修会の開催回数	目標 実績 備考 年度	研修医受験 も増えてき H31/R1 - 70回	ていると考 R2 - 46回	えております R3 - 54回	す。 R4 60回 54回 部)主催の R4	R5 60回 62回 研修のみを R5	R6 60回 66回 集計対象とし R6	R7 60回 - ンている R7	R8 60回 —	R9 60回 —	定量 対目標 対前年 対前年	量指標 + +
)看護教育の充実 研修会の開催回数 (看護教育)	目標 実績 備考	研修医受験 も増えてき H31/R1 - 70回 教育研究も	ていると考 R2 - 46回 2ンター(看	えております R3 - 54回 護教育研究	す。 R4 60回 54回 C部)主催の	R5 60回 62回 研修のみを	R6 60回 66回 集計対象とし	R7 60回 - ンている	R8 60回 一	R9 60回 —	対目標対前年対目標対目標	量指標 + +
)看護教育の充実 研修会の開催回数	目標 実績 備考 年度	研修医受験 も増えてき H31/R1 - 70回 教育研究も	ていると考 R2 - 46回 2ンター(看	えております R3 - 54回 護教育研究	す。 R4 60回 54回 部)主催の R4	R5 60回 62回 研修のみを R5	R6 60回 66回 集計対象とし R6	R7 60回 - ンている R7	R8 60回 —	R9 60回 —	定量 対目標 対前年 対前年	量指標 + + = = = = = = = = = = = = = = = = =
)看護教育の充実 研修会の開催回数 (看護教育) 認定・専門	目標 実績 備考 年度	研修医受験 も増えてき H31/R1 - 70回 教育研究セ H31/R1 - 24人	R2 - 46回 2ンター(看 R2 - 24人	えております R3 - 54回 護教育研究 R3 -	R4 60回 54回 部)主催の R4 21人 21人	R5 60回 62回 研修のみを R5 24人 24人	R6 60回 66回 集計対象とし R6 28人 28人	R7 60回 - ンている R7 28人 -	R8 60回 一 R8 29人 一	R9 60回 - R9 29人	対目標対前年対目標対目標	量指標 + + = = = = = = = = = = = = = = = = =
)看護教育の充実 研修会の開催回数 (看護教育) 認定・専門 看護師数 取り組みや評価	目実 備 年目実 参	研修医受験も増えてき H31/R1 - 70回 教育研究セ H31/R1 - 24人 ・R6年度以 患者を中育ンし、 もおをテンし、	ていると考 R2 - 46回 アンター(看 R2 - 24人 取は、るた習の なった習のの なった習のの なった習のの なった。	えておりまで R3 - 54回 護教育研究 R3 - 22人 戸病院の閉門 と姿勢を持ている。 開催し、年間にも取り組ん	ま。 R4 60回 54回 3部)主催の R4 21人 21人 院に伴う職員 5への研解催し	R5 60回 62回 研修のみを記 R5 24人 24人 3の異動を加き担 生期医療を担	R6 60回 66回 集計対象とし R6 28人 28人 28人 28人 28人 29時知識 奨している	R7 60回 - ンている R7 28人 - 設定となっ ・技術を学	R8 60回 - R8 29人 - ている び、自らの記 24年度からほ	R9 60回 - R9 29人 -	定量対前年対前年が対方を関する。対対が対方を対する。対対が対方を対する。対対が対方を対する。対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が	造指標 + + = = = = + = = + = +
看護教育の充実 研修会の開催回数(看護教育) 認定・専門 看護師数 取り組みや評価	目実 備 年目実 参 事務職	研修医受験も増えてき H31/R1 - 70回 教育研究セ H31/R1 - 24人 ・R6年度以 患者を存うし、 患者を育うと し、 だ対する	ていると考 R2 - 46回 アンター(看 R2 - 24人 降は、東松 とするた習の でである。 ですでは、 でする。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でしる。 でする。 でである。 でである。 でである。 です。 です。 でする。 です。 です。 です。 でしる。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です	えておりまで R3 ー 54回 護教育研究 R3 ー 22人 戸病院の閉門 と、院催の閉門と、院催取り組の 関にも取り組の 実	ま。 R4 60回 54回 部)主催の R4 21人 21人 完に伴う職員 ち、の研例開催し も、のでる。	R5 60回 62回 研修のみを記 R5 24人 24人 24人 3の異動を加 注期医療を指 対会参加実績	R6 60回 66回 集計対象とし R6 28人 28人 28人 28人 28人 ではした目標 ほう専門知識 軽奨している 責は99.4%で	R7 60回 一 つている R7 28人 一 設定となっ ・技術を学。 。まった。20	R8 60回 - R8 29人 - ている び、自らのう 24年度からほ 25年度から	R9 60回 - R9 29人 - 責任の元に 訴長を対象に はその対象を	定量対前年対前年対前年が対方を主任まで	造指標+告指標+であるであるさの大
看護教育の充実研修会の開催回数 (看護教育)認定・専門 看護師数取り組みや評価	目実 備 年目実 参 事務度 事務度	研修医受験も増えてき H31/R1 - 70回 教育研究セ H31/R1 - 24人 ・R6年度以 患者を中育ンし、 もおをテンし、	ていると考 R2 - 46回 アンター(看 R2 - 24人 取は、るた習の なった習のの なった習のの なった習のの なった。	えておりまで R3 - 54回 護教育研究 R3 - 22人 戸病院の閉門 と姿勢を持ている。 開催し、年間にも取り組ん	ま。 R4 60回 54回 34回 21回 R4 21人 21人 院に伴う職員 5への阿開催し かの阿開催し かのR4	R5 60回 62回 研修のみを記 R5 24人 24人 3の異動を加 共開会を担 対公参加実績	R6 60回 66回 集計対象とし R6 28人 28人 28人 28人 ではりました目標 は99.4%で	R7 60回 一 つている R7 28人 一 設定となっ ・技術を学。 また、20 あった。20	R8 60回 - R8 29人 - ている び、自らのう 24年度から 25年度から	R9 60回 - R9 29人 - 責任の元に等 師長を対象に はその対象を	定量対前年対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が	
の (看護教育の充実 研修会の開催回数 (看護教育) 認定・専門 看護師数 取り組みや評価 の 取り組みや評価	目実 備 年目実 参 事務度標 種	研修医受験も増えてき H31/R1 - 70回 教育研究セ H31/R1 - 24人 ・R6年度以 患者材をテ育ン護 シーレ、 に対する H31/R1 - 1	ていると考 R2 - 46回 アンター(看 R2 - 24人 降は、東松 とする学習の でである。 とでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでも	えております。 R3 - 54回 - 護教育研究 R3 - 22人 - 戸病院の閉門と、開催取り組みを持続にも取り組みを持続により組みを発す。 R3	ま。 R4 60回 54回 部)主催の R4 21人 21人 完に伴う職員 ち、の研回開催し がでる。 R4 10回	R5 60回 62回 研修のみを記 R5 24人 24人 3の異動を加 注期医療加 注別会参加実績 R5 10回	R6 60回 66回 集計対象とし R6 28人 28人 28人 で は99.4%で	R7 60回 一 つている R7 28人 一 設定となっ ・技術を学。 。まった。20	R8 60回 - R8 29人 - ている び、自らのう 24年度からほ 25年度から	R9 60回 - R9 29人 - 責任の元に 訴長を対象に はその対象を	定量対前年対対が一定標準を対対が一定標準を対対が一を表する。	
)看護教育の充実 研修会の開催回数 (看護教育) 認定・専門 看護師数	目実 備 年目実 参 事務度 事務度	研修医受験も増えてき H31/R1 - 70回 教育研究も H31/R1 - 24人 ・R6年度以 患材ピ、を育ン護管 ・ に対する H31/R1 - 2回	ていると考 R2 - 46回 マンタ R2 - 24人 東 思め会育の 母 R2 - 3回 のである。 R2 - 3回	えておりまで R3	ま。 R4 60回 54回 部)主催の R4 21人 21人 院に伴う職員 ちいの何回名。 R4 10回 9回	R5 60回 62回 研修のみを記 R5 24人 24人 3の異動を加 対対の異動を担 対対の異動を担 対対の異動を担 対対の異動を担 対対の異動を担 対対の異動を担 対対の を担 対対の を担 対対の の の の の の の の の の の の の の の の の の	R6 60回 66回 集計対象とし R6 28人 28人 28人 ロ味した目標 3 専門知識 5 要門知識 5 関している 1 は99.4%で	R7 60回 一 つている R7 28人 一 設定となっ ・技術を学 。また、20 あった。20	R8 60回 - R8 29人 - ている び、自らのう 24年度から 25年度から	R9 60回 - R9 29人 - 責任の元に等 師長を対象に はその対象を	定量対前年対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が	指標は計標はで者拡指標
の看護教育の充実 研修会の開催回数 (看護教育) 認定・専門 看護師数 取り組みや評価 文を職種(医療職・	目実 備 年目実 参 事務度標 種	研修医受験も H31/R1 - 70回 教育研究も H31/R1 - 24人 ・R6年度中育ン護 ・R6年ををテチ護 ・おおいし、 は対する H31/R1 - 2回 ・多職種を	ていると考 R2 - 46回 マンタ R2 - 24人 東 思め会育の な まる学者の R2 - 3回 対象とした	えております。 R3 - 54回 - 護教育研究 R3 - 22人 - 戸病院の閉門と、開催取り組みを持続にも取り組みを持続により組みを発す。 R3	ま。 R4 60回 54回 3部)主催の R4 21人 21人 院に伴う職員 5外の回る。 R4 10回 9回 して、院	R5 60回 62回 研修のみを記 R5 24人 24人 3の異動を加 注対会参加実 第かを指 2、 R5 10回 8回 8回 第の 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回	R6 60回 66回 集計対象とし R6 28人 28人 口味した目標 3 専門知識 達奨している 責は99.4%で	R7 60回 一 つている R7 28人 一 設定となっ ・技術を学。 あった。20 87 10回 一	R8 60回 - R8 29人 - ている び、自らのう 24年度から 25年度から	R9 60回 - R9 29人 - 責任の元に 訴長を対象に はその対象を	定量対前年対対が一定標準を対対が一定標準を対対が一を表する。	
(看護教育の充実) 研修会の開催回数 (看護教育) 認定・専門 看護師数 取り組みや評価 (医療職・院内研修の 企画開催	目実 備 年目実 参 事 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	研修医受験も H31/R1 - 70回 教育研究も H31/R1 - 24人 ・R6年度中育ン護 ・R6年ををテチ護 ・おおいし、 は対する H31/R1 - 2回 ・多職種を	ていると考 R2 - 46回 マンタ R2 - 24人 東 思め会育の な まる学者の R2 - 3回 対象とした	えておりまった。 R3 - 54回 - 護教育研究 R3 - 22人 - 万病院の閉門と、開催取り組みを院権取り組みを持続により。 R3 - 10回 全体研修と	ま。 R4 60回 54回 3部)主催の R4 21人 21人 院に伴う職員 5外の回る。 R4 10回 9回 して、院	R5 60回 62回 研修のみを記 R5 24人 24人 3の異動を加 注対会参加実 形を指 2、 R5 10回 8回 8回 第00 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回	R6 60回 66回 集計対象とし R6 28人 28人 口味した目標 3 専門知識 達奨している 責は99.4%で	R7 60回 一 つている R7 28人 一 設定となっ ・技術を学。 あった。20 87 10回 一	R8 60回 - R8 29人 - ている び、自らのう 24年度から 25年度から	R9 60回 - R9 29人 - 責任の元に 訴長を対象に はその対象を	対対 対対 対対 対対 が が が が が	
の看護教育の充実 研修会の開催回数 (看護教育) 認定・専門 看護師数 取り組みや評価 文を職種(医療職・	目実 備 年目実 参 事 年目実 備標績 考 度標績 考	研修 (根) (根) (根) (R) (R) (R) (R) (R) (R) (R) (R	ていると考 R2 - 46回 (看 2 2 A 東 思め会育の A R2 - 24人 東 思め会育の R2 - 3回 し対・ R2 - 3回 し対・	えております。 R3 - 54回 - 護教育研究 - 83 - 22人 - 万病・勢内・いり組 - 大院催取り組 - 大田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田	ま。 R4 60回 54回 3部) 主催の R4 21人 21人 完に、のの回 5外間16回る。 R4 10回 10回 10所含まれる。	R5 60回 62回 研修のみを記 R5 24人 24人 の異動を加 対対のののでは R5 10回 8回 で企画・(別ののでは ののでは 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回 8回	R6 60回 66回 集計対象とし R6 28人 28人 28人 3専門知識 5要じているで は99.4%で 18回 18回 18回 18回	R7 60回 一 つている R7 28人 一 設定となっ ・技術を学。 。あった。20 87 10回 一	R8 60回 - R8 29人 - ている び、自らのう 24年度からり 25年度から 88 10回	R9 60回 - R9 29人 - 動長を対象に はその対象を R9 10回	対対 対対 対対 対対 が が が が が	指標 + + で者拡 指標 + + ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

中項目『 人材の育成 』評価

自己評価	委員評価
C	

	年度	1104 /D4										
	1 1/2	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
	目標	1	_	1	_	40人	28人	26人	24人	22人	対目標	
年間時間外労働時間	実績	-	30人	31人	44人	43人	15人	_	_	_	対前年	_
960時間超の医師数 - ★小さい方が望ましい指標	備考	救急科	、新生児科、	以外の診療科 、産婦人科、 科、小児科、	内科、糖尿	病・代謝・	内分泌内科					
月平均	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
時間外労働時間 (医師)	目標	_	_	_	_	60.00時間	60.00時間	60.00時間	60.00時間	60.00時間	対目標	1
★小さい方が望ましい指標	実績	I	62.10時間	66.32時間	74.89時間	54.61時間	48.19時間	_	1	_	対前年	▲ 6
月平均	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
時間外労働時間 (看護職員) -	目標	1	_	1	_	8.00時間	7.00時間	6.00時間	5.00時間	5.00時間	対目標	+3
★小さい方が望ましい指標	実績	-	4.96時間	4.86時間	5.28時間	6.80時間	10.20時間	_	_	_	対前年	+3
月平均	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
時間外労働時間 (医療技術職員) –	目標	_	_	_	_	12.00時間	12.00時間	12.00時間	12.00時間	12.00時間	対目標	+1,
★小さい方が望ましい指標	実績	_	15.28時間	16.29時間	15.86時間	13.07時間	13.60時間	_	_	_	対前年	+0
月平均	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
時間外労働時間 (事務職員)	目標	_	_	_	_	35.00時間	30.00時間	30.00時間	30.00時間	30.00時間	対目標	A 4
★小さい方が望ましい指標	実績		37.63時間	43.70時間	38.90時間	38.63時間	25.30時間	_	_	_	対前年	▲ 1
タスクシフト	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	<u> </u>	-1⊬.1⊞
の推進	目標	_	_	_	検討	検討	計画策定	実行	実行	実行	走性	指標
医位表数//2	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
医師事務作業 補助体制加算	目標	ı	_	-	_	25対1	20対1	20対1	15対1	15対1	定性	指標
110243THTTT	実績	30対1	25対1	25対1	25対1	25対1	25対1	_	1	_		
臨床工学技士	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		11-17
の当直体制	目標	_	_	_	_	検討	増員	増員	増員	実施	定性	指標

中項目『 働き方改革の積極的な推進 』評価

自己評価	委員評価
D	

IV .	人	材の育成と働き方改	革の推	進										
3.	評	価制度の推進												
	(1)目標管理制度の導	入と定	着										
		目標管理制度	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	<u>—</u> "	-+比+而
		の導入	目標	_	_	_	導入	見直し	定着	定着	定着	定着	走怕	E指標
		経営計画に基づいた	年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	定量	指標
		目標管理を実施	目標	_	_	_	80.0%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	対目標	±0.0pt
		している部署の割合	実績	_	_	_	81.6%	100.0%	100.0%	_	_	_	対前年	$\pm 0.0pt$
	(2	取り組みや評価 2)人事評価制度の改	<u> </u>		F目となり、	(BSC)」を作 年度末に一						など、運用	について	見直し・
	Ì	人事評価制度	· 年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
		の見直し	目標	_	_	_	検討	見直し	導入	定着	定着	定着	定性	注指標
			年度	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
		職員満足度	目標	_	_	_	調査実施	調査実施	調査実施	調査実施	調査実施	調査実施	定怕	E指標
		取り組みや評価	Īī.	人事評価制度の見直しは、先進自治体が行っている取組みを視察を行い当院における人事評価の仕組みの構築を進めており、現時点での導入までは至っていない。 職員満足度調査については、調査実施に伴う調査項目の見直しや分析等について見直しを進めている。										

中項目『 評価制度の推進 』評価

自己評価	委員評価
D	

大項目『 人材の育成と働き方改革の推進 』評価

自己評価	委員評価
C	